

## Ⅱ. 後期基本計画

### 施策38

## 狭山の地域資源を活用した観光の推進

### 施策の目指す姿

観光資源が活用され、市民が狭山を深く理解し、誇りを持ち、情報発信することで、人の交流が生まれ、観光客が増加しています。

### 施策の現状

観光については、見て楽しむ観光から体験型・参加型観光へと変化しており、地域の人、文化、暮らしなどが観光資源として注目されています。また、外国人観光客の増加やSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などによる情報発信、趣味の多様化、ワーク・ライフ・バランスの推進など、観光を取り巻く環境は大きく変化しています。

このような中、本市では、観光事業を総合的に推進する狭山市観光協会を支援するとともに、市や観光協会の公式ホームページをはじめ、様々な宣伝媒体を活用し、本市の観光資源である智光山公園や県営狭山稲荷山公園、入間川などの豊かな自然、毎年8月に開催される狭山市入間川七夕まつりなどのイベント、特産品として名高い狭山茶などについて情報を発信しています。

また、市民の自主的な活動により観光マップの作成や身近な観光資源をめぐるウォーキングが実施されるなど、市民が狭山についてもっと深く知りたいという機運も高まっており、市民、企業、行政などが一体となって、新たな視点で狭山の魅力を発掘し、市内外へ発信しようとする動きがあります。

### 施策の課題

- 地域の資源を活かした新たな観光の開発と情報の発信が必要です。

## 主なとりくみ

### (1) 地域観光資源の発掘・観光情報の発信

- 文化財や豊かな自然などの様々な地域資源が、新たな観光資源として活用されるよう、狭山市観光協会などと連携して、インターネットやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）、観光マップなどを活用した観光情報を発信します。
- 企業や農業者、団体などによる活動で、観光資源となるものについては、狭山の魅力の発信・伝達に向けた取り組みとして支援します。
- 狭山市入間川七夕まつりは、市民との協働を進めつつ、更なるにぎわいの創出を推進します。
- 智光山公園の利活用の促進を図るとともに、入間川河川敷（河川敷中央公園の一部）においては、水辺と地域をつなぐ観光拠点として、官民連携を図りながら、更なる交流人口の増加や恒常的なにぎわいの創出を図ります。

## 施策の成果目標

項目	実績値	目標値
	令和元年度	令和7年度
観光入込客数	3,316,102人	3,500,000人
公式フェイスブックの観光記事閲覧件数	882,552件	1,000,000件

## 市民・団体・事業者などに期待する協働による行動

- 観光資源を発掘・再確認し、情報を発信しましょう。
- 「見る」から「参加・体験」へ、狭山市入間川七夕まつりなどのイベントに積極的に参加しましょう。

## 関連するSDGsのゴール

- ゴール8 働きがいも経済成長も
- ゴール11 住み続けられるまちづくりを
- ゴール17 パートナリシップで目標を達成しよう

